

(別添 4)

【愛知県大府市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

人工知能（AI）、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられることにより、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難なものになってきています。

急激に変化する時代の中で、学校教育においては、1人1人の児童生徒が、自分の可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるように、文章を正確に理解する読解力、自分で考えて表現する能力、知識やアイデアを共有し、新しい解を生み出す能力等の育成が求められています。

本市では、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、1人1台端末などのデジタル技術の利活用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を身に付け、問題解決に向けて取り組むことができるこどもの育成を目指します。

2. GIGA第1期の総括

本市は、平成27年度から他市町村に先駆け、市内小中学校へ1人1台端末（以下、「端末」という。）の整備を開始し、校内の通信ネットワークの整備も行いました。平成30年度には、教職員のICTに関する知識と技術の向上を目的として、ICT支援員を各校に1名ずつ配置し、機器の整備やソフトウェア等の操作支援、ICT機器を活用した授業提案等を開始しました。令和2年度には、国のGIGAスクール構想に基づく補助金を活用し、小学校4年生から中学校3年生に端末の整備を行いました。小学校1年生から3年生は、令和3年度から令和4年度にかけて整備を行い、市内全小中学校における端末の整備が完了しました。

また、端末の整備と併せて、双方向デジタルディスプレイ（電子黒板）（以下、「ディスプレイ」という。）を普通教室及び特別支援教室に各1台ずつ整備を行い、児童生徒それぞれの意見の投影等による、教員と児童生徒、児童生徒間の双方向の対話的な学びを促す環境を作っています。

これらの取組の結果、本市は、令和5年度に実施した全国学力・学習状況調査で、「授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した割合」が全国や県平均と比べて高い数値を示すなど、ICT機器を利活用できる環境を整えています。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新後についても、端末とクラウド環境を引き続き維持していきます。現時点では、端末の授業での利活用等日常的な活用はほぼできていますが、「個別最

適な学び」「協働的な学び」の充実については、まだ達していない学校があり、今後も端末の効果的な利用方法を検討していく必要があります。

そのため、各校1名のICT支援員の配置を継続し、各校でのICT機器等の活用の状況を鑑みたくえて、最適な活用ができるように支援を継続します。

また、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を実現する手立てとして、市内外の学校を視察しやすくするための機会を促進し、教師自身が実際にみることで主体的に学ぶことができるようにしていきます。合わせて、市内学校でのICT機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の好事例を共有し、市内すべての学校でICT機器の効果的な利活用が実現できるようにします。

なお、利活用の推進にあたっては、児童生徒がICT機器を適切に判断して活用できる力を身に付けさせることが必要となります。系統的な情報モラル教育を実施し、デジタル・シティズンシップを身に付けさせる教育を推進します。

また、端末を活用した学びの保障についても、取組を維持します。現在、希望する長期欠席児童生徒への支援については、クラウド環境を活用した連絡体制、オンラインでの授業への参加を少しずつ進めています。また、メタバースを活用した支援も引き続き継続し、誰もが環境や状況に関わらず、学びを受けられる環境の整備を促進していきます。